

**江東未来会議**  
**第4分科会（まちづくり・環境分野）**  
**第4回 議事概要**

日時：平成19年11月22日（木）19:00～21:00

場所：文化センター2階 旧区政PRコーナー

参加人数：13人

1. 開会

2. 事務局からの連絡事項

3. 本日のワークショップの進め方について

【事務局より資料説明】

○参加者

- ・いろいろな課題があるがまとめた方が良いのか。
- ・欠席者からの意見は反映済みか。

○事務局

- ・重要な内容が複数ある場合は列挙してほしい。しかし、すべてを重視すると1つ1つのメッセージの重みが軽くなる可能性がある。
- ・今回は欠席者からの意見は特に寄せられていない。

4. ワークショップ

（1）作業

参加者が、「水辺」「防災」「交通」の3グループに分かれ、前回討議したテーマごとの課題を関係性の高い意見ごとにグルーピングして、グループごとにタイトルをつけた。

【グループ毎に作業】

（2）発表・意見交換

【作業結果】詳細は別紙（江東未来会議第4分科会第4回グループ討議結果）参照

○交通グループ

- ・大きく交通網と交通手段に分けられ、それぞれについて現況と課題、対策を整理した。
- 交通網については、どこへでも行ける公共交通網の整備が求められる。そのための方法

としてトランジットモールの整備があげられる。

- ・交通手段は、まず鉄道関係で、南北を一本通すLRT（新型路面電車）の復活が挙げられる。欧州で普及しているが環境にもやさしい。また、循環コミュニティバスを整備し、区内を細かく区切り、100円で区内の要所に誰でも行けるようにすべきである。このほか、自転車道の整備や歩道のバリアフリー化があがった。最後に、全体を掲げるテーマとして住民のための交通を提案する。区外からの訪問者のための交通は都が整備すべきである。

#### ○参加者

- ・南北交通には貨物線跡地の活用も手段の一つと考えられる。

#### ○水辺グループ

- ・8つのキーワードがある。河川に関する課題が最多である。河川は区としてアピールできる水辺空間だが、水に接することができる場所は少ないので、親水整備が求められる。そして、水上交通等を整備して、水辺から町を眺める、観光地をめぐるなど、観光をアピールしていくという意見である。
- ・自然は、区内に緑地が点在して生物が移動できない、自然が少ない印象があるので、増やしていくべきという意見である。魚は、水がよどんで見えにくい、水族館整備、外来種が多いなどの意見があった。防災では中央防波堤の外は危険という意見がある。
- ・水彩都市は、江東区の象徴となる空間を整備していくという意見である。また、水と緑をセットで考えるべきとのことである。その他、橋がないという指摘もあった。

#### ○参加者

- ・水辺空間が連続していないので、循環できずに途中で切れてしまう。回遊性という視点も入れてほしい。
- ・建築物の整備は進む豊洲地区だが、水と緑が少ない。
- ・江東区は他の臨海部に比べると緑が多い。緑被率は23区内で千代田区に続いて高い。
- ・江東区は元来野鳥が多い。えこっくる江東で研究している。野鳥保護も入れてほしい。

#### ○防災グループ

- ・まず、理念の問題として予想外の災害が生じた時の対策が課題である。また、行政による課題として、区はこれまで人口増加を促進してきたが、避難場所の確保が懸念される。さらに、M7～8クラスの震災が生じた場合、相当の家屋倒壊が予想される。民間事業所やマンションでの消火体制は不十分だと思う。人口44万人が避難することを想定した緊急避難地域の点検が必要である。
- ・住民の実行面についてみると、マンションや事業所の教育訓練が不足している。震災時に自動車は利用禁止であることが周知されていない。非常食や消火器の配備も注意すべきである。

○参加者

- ・荒川のカーブの具合から、江東区は津波の影響を受ける可能性があると感じた。小名木川が災害時の臨時交通と想定されているが、治水対策を点検してほしい。
- ・防災訓練は年 1 回行われており、非常食も各戸に配布されている。マンションよりも戸建ての方が心配である。
- ・関東大震災の時、町民の防火体制の違いが明暗を分けた。区として防災意識を高め、人口増もその点を踏まえて考えてほしい。

【全体議論】

○渋谷コーディネーター

- ・水辺では魅力を活かして観光への活用を図るといった意見があった。一方、交通では区民のための安全・利便性の追及が指摘された。防災では、教育や避難場所の点検等が指摘された。区全体の大きな方向性として、区民を守るという視点と、区外からの人を入れるという視点をどのように捉えるか。

○参加者

- ・区民が豊かな生活をおくることができれば、観光は後からついてくると思う。
- ・東京都ではオリンピック招致を進めている。予定では、区内に競技場や宿泊施設が設置される。区域拡張につながる可能性もあり、当区への影響は大きい。

○渋谷コーディネーター

- ・江東区はオリンピックという大きな外部要因が存在する。オリンピックは 2016 年だが、決定は 2009 年である。

○参加者

- ・震災時の避難場所は地図が作成されており、各町会で訓練を実施している。改めて実施する必要は無いのではないかと。
- ・避難地域を確認して、住民に PR する必要がある。訓練に参加しない人もいる。また、事業所が集積する地域等は組織が無く、訓練もしていない。
- ・寂れた水辺の散歩道は、夜中に中高生がタバコや飲酒をする場所になっている。

○渋谷コーディネーター

- ・水辺を整備するだけでなく、使い方を含めて考えていく必要があるという意見である。

○参加者

- ・オリンピックとマンションの規制緩和による人口増は連動していない。学校等の整備が進められて、受入環境が整い、規制が緩和された。

○事務局（江東区）

- ・マンションの建設を規制することは本来の姿ではないとの考えに立つと聞く。

○渋谷コーディネーター

- ・江東区では防災のための避難場所が地域ごとに準備されている。避難訓練は地域ごとに連動して行われてはいないのか。避難訓練の参加率はどの程度か。

○参加者

- ・避難地域と訓練は連動していない。避難場所も知らない人がいる。古くからの住民は知っているが、マンションに入居している新住民は知らないのではないのか。
- ・マンションに住んでいるが、入居時に避難場所の説明があった。
- ・避難訓練の実施状況は、連合会あるいは消防署で把握しているのではないのか。
- ・9月1日にサイレンを鳴らして区全体で一斉訓練を行ってはどうか。区全体で教育訓練を徹底し、区民全体の防災意識を高めることが、被害を少なくすることに結びつく。

○渋谷コーディネーター

- ・実際に身につくような訓練が行われているかどうかが問題だと思う。実態を踏まえて議論に持っていきたい。また、水辺空間における青少年の問題などはあるのか。

○参加者

- ・一部の水辺地域にホームレスがいる。高速道路の下が半地下になっているので、入りやすい構造になっている。
- ・今後10年間では、オリンピックとともに、築地市場の移転問題の影響が大きい。
- ・オリンピックと築地の問題は、招致を前提として住民のために議論してはどうか。

○渋谷コーディネーター

- ・江東区全体の環境についてはどうか。
- ・例えば、オランダのアムステルダムは水上交通が発達しているので、道路をトラックがあまり走っていない。道路と水路の双方が交通網として機能している。

○参加者

- ・温暖化対策に通じる津波対策は防災対策の1つである。水辺の整備ができれば環境は良くなる。また、交通システムによっては環境負荷を削減できる。環境は全体を包括する位置づけでよいと思う。
- ・区政の連続性を考慮すると、水彩都市として水辺を主体とした区政の発展を目指す必要があるだろう。水上交通を住民が利用できる交通網とするには、埋めてしまった公園下の水路を復活する必要がある。水上交通やLRT等を組み合わせた複合的な交通網がテーマである。
- ・関東では、中央防波堤等の整備が進められ、昔のような水害は20年以上生じていない。

○渋谷コーディネーター

- ・水彩都市を推進していく方向で議論を進めることとしたい。
- ・すべてのテーマに共通する問題があると思う。次回の将来像の議論にあたっては、どこに重点をおき、10年後の姿を描くか。審議会にどのようなメッセージを出していくのか、議論を深めたい。

## 5. 次回の進め方

### ○事務局

- ・将来像の検討は次回行うこととしたい。将来像とは10年後になっていてほしい姿をさす。

### ○参加者

- ・当会議の議論は区民が中心で行うものだが、感情に流されやすい部分もある。行政やコンサル等の事務局も参加してはどうか。

### ○渋谷コーディネーター

- ・コンサルは区民ではない。一般的な視点という意味で、第三者の意見反映は審議会で行われる。あくまで事務方としての参加が良いと思う。行政の参加は検討したい。

### ○事務局

- ・参加時間を早めてほしいという希望があるがどうか。  
→現状の19:00開催の希望者の方が多いことから、次回以降も19:00開催とする。

一日程調整を行い、第6回開催日を以下の通り決定した。

第6回 1月29日(火) 19:00~21:00

(以上)